

7) ハンセン病患者等に関する人権上の問題点

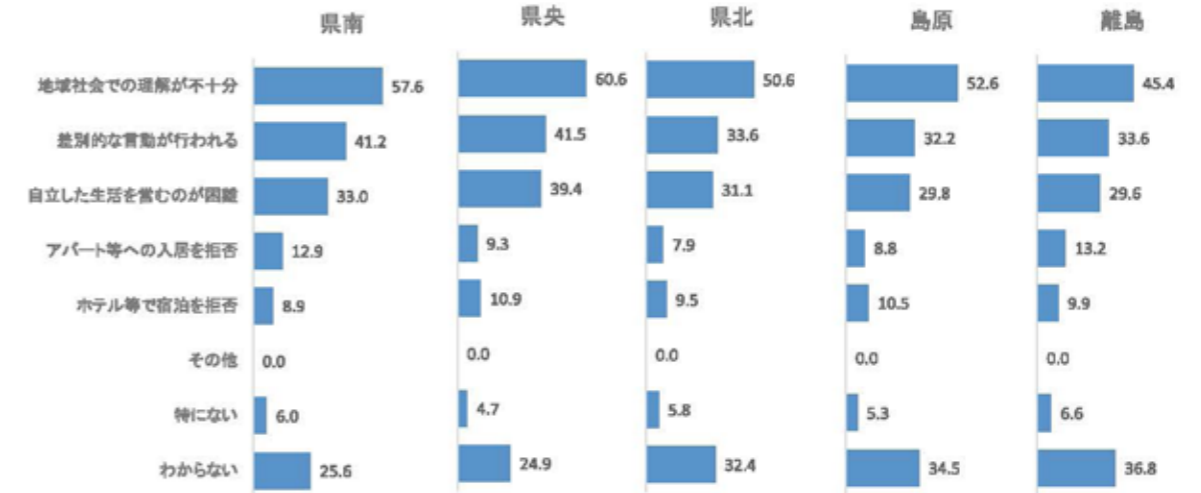
問13 ハンセン病患者・元患者等に関することで、人権上、特に問題があると思われるのはどれですか。(✓は3つまで)

1. 地域社会での正しい知識と理解が十分でないこと
2. ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと
3. 差別的な言動が行われること
4. アパート等への入居を断られること
5. ホテル等で宿泊を拒否されること
6. その他(具体的に:)
7. 特にない
8. わからない

表13-1 全体・行政区域別

	人数	地域社会での理解が不十分	自立した生活を営むのが困難	差別的な言動が行われる	アパート等への入居を拒否	ホテル等で宿泊を拒否	その他	特にない	わからない
全体	1259	52.9	32.2	36.1	11.3	9.7	0.0	6.2	29.9
県南	403	57.6	33.0	41.2	12.9	8.9	0.0	6.0	25.6
県央	193	60.6	39.4	41.5	9.3	10.9	0.0	4.7	24.9
県北	241	50.6	31.1	33.6	7.9	9.5	0.0	5.8	32.4
島原	171	52.6	29.8	32.2	8.8	10.5	0.0	5.3	34.5
離島	152	45.4	29.6	33.6	13.2	9.9	0.0	6.6	36.8

図13-3 行政区域別



行政区域別では、5地域すべて上位3項目は、「地域社会での理解が不十分」、「差別的な言動が行われる」、「自立した生活を営むのが困難」の順で全体と変わらない。
また、上位3項目を個別に見ると、「地域社会での理解が不十分」は県央60.6%、「差別的な言動が行われる」は県央41.5%、「自立した生活を営むのが困難」は県央39.4%がそれぞれ最も多くなっている。

ハンセン病患者・元患者等に関する人権上の問題としては、「地域社会での理解が不十分」が52.9%で最も多く、次いで、「差別的な言動が行われる」36.1%、「自立した生活を営むのが困難」32.2%と30%以上で続いている。
前回調査との比較では、項目の順位に変動はなかった。また、特に「ホテル等で宿泊を拒否」(6.1ポイント)、「差別的な言動が行われる」(5.9ポイント)の割合が減少し、「わからない」(7.1ポイント)、「特にない」(2.7ポイント)の割合が増加した。

図13-1 全体

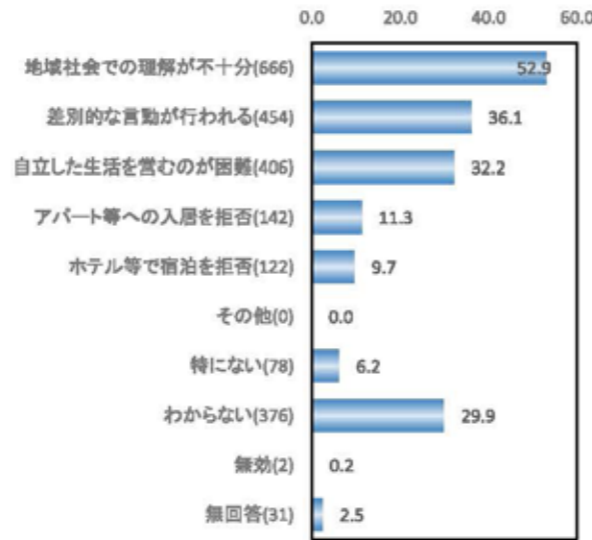


図13-2 前回調査との比較

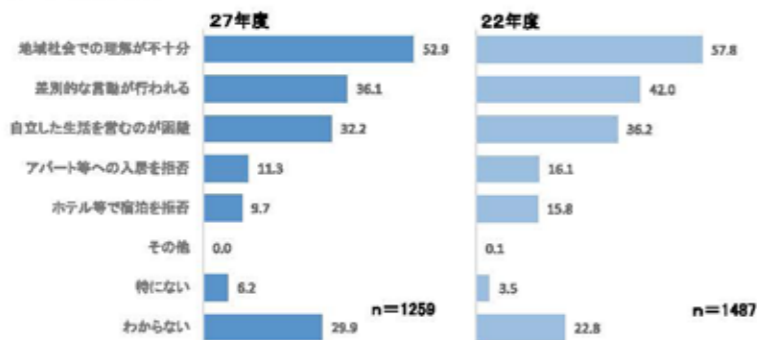


表13-2 性・年齢別

	人数	地域社会での理解が不十分	自立した生活を営むのが困難	差別的な言動が行われる	アパート等への入居を拒否	ホテル等で宿泊を拒否	その他	特にない	わからない
全体	517	54.7	30.2	37.9	9.9	10.3	0.0	7.7	28.0
20~29歳	26	42.3	26.9	38.5	15.4	11.5	0.0	7.7	30.8
30~39歳	63	41.3	25.4	34.9	11.1	12.7	0.0	9.5	31.7
40~49歳	73	54.8	24.7	38.4	13.7	8.2	0.0	6.8	28.8
50~59歳	106	53.8	32.1	34.9	7.5	11.3	0.0	8.5	26.4
60~69歳	135	65.2	29.6	41.5	12.6	13.3	0.0	5.2	25.2
70歳以上	112	53.6	36.6	37.5	4.5	4.5	0.0	9.8	29.5
全体	642	53.6	34.7	37.1	11.5	8.3	0.0	4.2	31.2
20~29歳	43	51.2	44.2	46.5	23.3	23.3	0.0	2.3	25.6
30~39歳	93	58.1	35.5	43.0	14.0	12.9	0.0	2.2	23.7
40~49歳	101	50.5	34.7	42.6	11.9	7.9	0.0	2.0	33.7
50~59歳	123	69.9	38.2	47.2	7.3	10.6	0.0	2.4	17.9
60~69歳	130	56.2	32.3	29.2	16.2	8.5	0.0	2.3	34.6
70歳以上	151	38.4	31.1	25.8	6.0	4.0	0.0	10.6	43.0

図13-4 性・年齢別

